

令和元年度性教育検討委員会概要

日時 令和2年2月13日(木)午後1時30分～2時30分

場所 小田原市役所6階 601会議室

出席者

性教育検討委員：学校医3名、市立病院産婦人科主任部長、産婦人科医師2名
中学校長1名、中学校養護教諭2名、教育指導課指導主事1名 計10名
事務局(学校安全課副課長、保健係員3名)計4名

会議概要

1 開会

2 あいさつ

学校安全課長が他公務のため省略

3 委員長選出

要項第4条2項により、学校医部会長 遠藤委員が委員長に選出された。

4 議題

(1) 令和元年度の性教育講演会について

委員長：議題(1) 令和元年度の性教育講演会について、事務局から報告をお願いします。

報告の後、今年度の性教育講演会を評価し、生徒の感想から、目的を果たしているかどうか審議する。

事務局(説明)：

急速に進む情報化社会の中で、不確かな性情報の氾濫、また、性に対する関心や性衝動の発現が早期化の傾向にある。そのため、性についての正しい知識の普及を図ることを目的とし、中学校の生徒や保護者を対象に性教育講演会を開催した。

講演会の実施方法としては、昨年度の検討委員会で推薦された講師の中から、中学校の希望をもとに教育委員会が講師を依頼した後、各中学校と講師とで打ち合わせをし、講演会を実施した。また、新規の講師には、性教育指導の手引きを配布し、本事業を実施する目的を良く伝えた上で講演会を依頼している。

講演会は、令和元年6月4日から令和2年3月6日までの間に、市内全中学校での開催を計画しているが、昨年末までに11校のうち6校が講演会を終えており、残りの5校は2月及び3月に開催を予定している。

それぞれの学校において、男女の心と体の違い、性的マイノリティについて、自他の性を大切にすること、デートDVやストーカー被害等若年層での性課題について、思春期の心と体、妊娠と出産、性感染症の予防、医療現場での体験談、SNSの怖さや使い方にも触れ、学校の希望にそって、講師の先生方にお話をいただいた。産婦人科や泌尿器科の医師、感染症対策専門看護師、助産師、元中学校長等と、講師の専門分野はさまざまだが、どの先生方も学校の希望に応え、講師の体験談や経験談を交えて生徒に語りかけてくださり、生徒たちがそれを真剣に受け止められたことが

伺える。

- 委員長** : それでは、令和元年度の性教育講演会の評価をしたい。生徒の感想を見て、目的を果たしているかどうかなど、意見をいただきたい。
- 委員** : 講演会の限られた時間の中で、喫煙やSNSの問題にまで触れることは難しい。教員や学校医による、普段の教育の中で生徒に伝える機会も設けていただきたい。
- 委員** : 中学1年生を対象に、学校医が、飲酒や喫煙、熱中症、がん教育等に触れる講演会を開催する学校もある。
- 委員** : 感想の記入用紙について、感想のほか疑問に思ったことを記入する欄を設け、生徒が誰にも聞けない心配なことを記入出来るようにしている学校もある。この欄には、講演会の場では質問できない内容も記入されており、内容に応じで、講演会後に講師にアドバイスを頂戴するほか、男性職員から声を掛けてもらうなどの対応をとっている。
- 事務局** : 今後、感想を記入する用紙には、疑問に思ったことや心配なことを記入する欄を設け心配だが誰にも相談できないことを拾い上げていき、個別に面談してその後のフォローにつなげていかれるよう、全中学校に周知していく。
- 委員** : 保護者が聴講している学校もあるが、保護者に感想を記入していただいているか伺いたい。
- 委員** : 保護者にも講演会の周知をしているが、聴講に来る保護者は少ない。聴講に来た際には、感想の記入をお願いしている。
- 委員** : 子宮頸がんやワクチンの有用性について、教育現場で触れる機会はあるか。知識として伝える場は必要ではないか。
- 委員** : 最近の産婦人科学会では、改めて子宮頸がんワクチンを推進する流れがある。また、総じてワクチンは絶対に安全とは言えない。子宮頸がんワクチンに限らず、すべてのワクチンに副作用があることを理解したうえで接種してもらう必要がある。
- 委員** : 教育の場は、さまざまな知識を得る場であってほしい。子宮頸がんワクチンの有用性と副作用に関しては事実を正しく伝えたいうえで、接種するかどうかはそれぞれの保護者の選択になる。
- 委員** : 子宮頸がんワクチンやワクチン全般について保護者や市民へ説明できる場が少ない。市民公開講座もあるが、高齢者が主な参加者となっている。今後はワクチンについて伝えていく場を考えなければいけない。
- 委員** : 学校で情報を発信していくためには、まず養護教諭に正しい情報や知識を伝えていく必要がある。
- 事務局** : 今後、医師から養護教諭に対して、日本における子宮頸がんワクチンの歴史や経年の子宮頸がん罹患患者数など、根拠をもった知識を伝える場を設けられるよう調整していく。
- 委員** : 保護者の中にはワクチン接種に反対する方もいるため、学校からワクチンに関する情報を発信していくことは難しい状況がある。
- 委員** : 学校からではなく、外部講師や医師から伝える機会を設ければよい。
- 委員** : 子どもだけではなく、保護者にも伝えていく必要がある。
- 委員長** : 今後、保護者も含め、ワクチンに関する正しい知識を伝えるに機会を増やしていた

だきたい。

様々な意見が出たが、性教育講演会の目的は果たされているという評価でよろしいか。

委員一同：諾

委員長：議題（1）令和元年度の性教育講演会については、目的を果たしているという評価し、終了する。

（2）令和2年度の性教育講演会講師の推薦および今後の方向性について

委員長：次に、議題（2）令和2年度の性教育講演会講師の推薦および今後の方向性について、審議をするが、まず事務局から説明をお願いする。

事務局（説明）：

本事業は、中学生に性についての正しい知識を伝え、性感染症の危険性や望まない妊娠をしないため専門職の先生方に講演をお願いして、進めていきたいと考えている。

委員：中学校養護教諭部会からは、平成30年度の性教育検討委員会で決定した今年度の講師一覧と同様の講師で依頼したいと意見がでた。新しい講師希望はなかった。

委員：平成30年度の性教育検討委員会で決定した講師一覧のうち、助産師1名は変更になる。

委員長：それでは、審議に入る。まず、目的と方法について意見等はないか。

委員一同：特になし

委員長：では、目的と方法については、来年度も従来通りとする。講師について意見はあるか。

委員一同：特になし

委員長：それでは、これで（2）令和2年度の性教育講演会講師の推薦および今後の方向性について、審議を終了する。

（3）その他

委員長：議題（3）その他について、何か意見はあるか。子宮頸がんなど性感染症が知識のない若者に微増していることを踏まえると、この性教育での知識の普及は必要と考える。

委員：性教育講演会とは少し異なるが、40歳代男性の風しんワクチンの啓発を推進したい。学校職員や市役所職員に対してだけでも接種率を上げられるよう協力してほしい。

事務局：毎年教育委員会から各学校の校長先生、養護教諭に依頼し、風しんワクチン対象者を挙げてもらい、接種勧奨を行っている。

委員：今後も毎年途切れずに、教育委員会から学校への接種勧奨は続けていただき、風しん抗体のない人をなくさないといけな。

委員長：意見も尽きたようなので、それでは、（3）その他について終了する。

以上